

平成28年度第1回広報推進協議会

平成28年7月15日（金） 13時00分～14時30分
国土地理院 関東地方測量部 大会議室（8F）

議事次第

議 題

- (1) 平成27年度取組の成果報告
- (2) 構成団体の平成28年度広報活動の取組について
- (3) 広報推進協議会の今後の取組について
- (4) その他
次回日程について

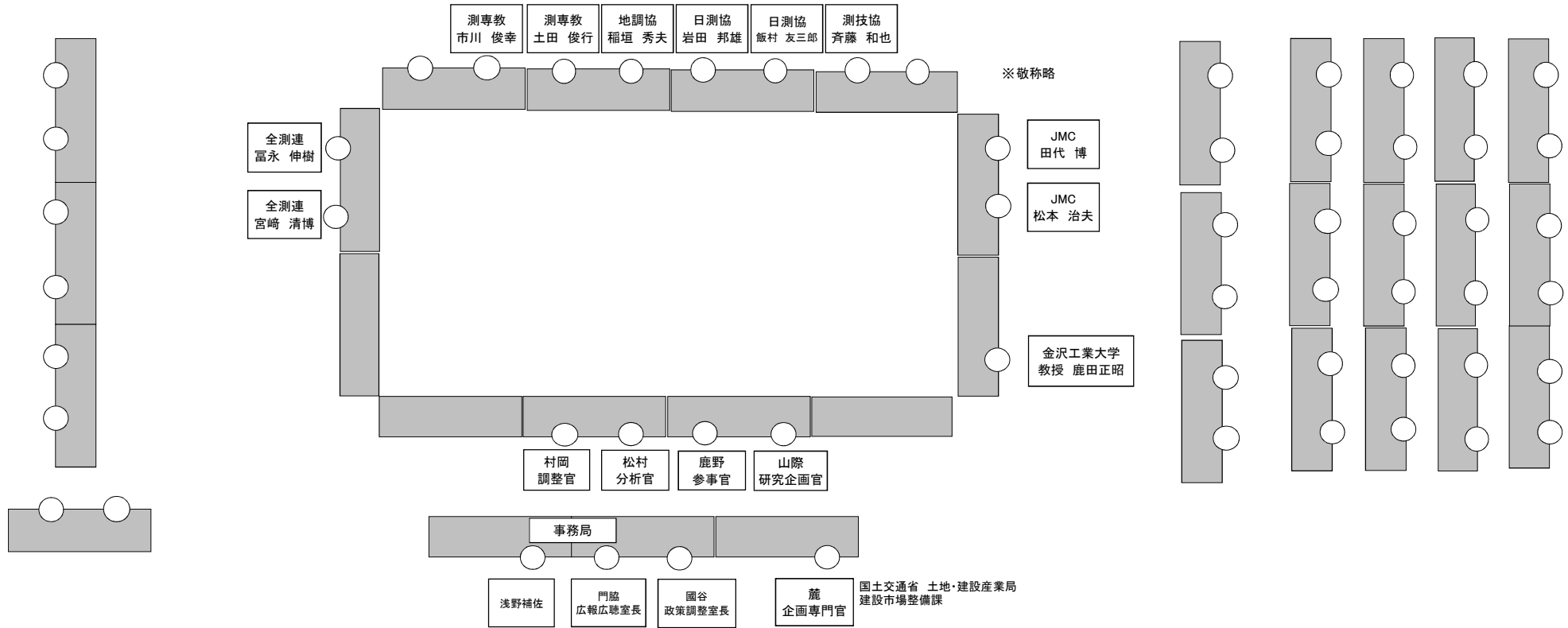
-
- (資料1) 測量のイメージアップのための「リーフレット」について
 - (資料2) 構成団体の平成28年度広報活動の取組について
 - (資料3) 国土地理院の取組

平成28年度 第1回広報推進協議会配席表

日時:平成28年7月15日(金) 13:00~14:30
 場所:関東地方測量部大会議室

窓

スクリーン



出入口

廊下

出口

広報推進協議会構成員

宮崎 清博 (一社)全国測量設計業協会連合会 事務局長

富永 伸樹
〃
((一社)群馬県測量設計業協会 会長)

市川 俊幸 (一財)測量専門教育センター 事務局長

土田 俊行
〃
(中央工学校 教務部 土木測量系 学科長)

稲垣 秀夫 (一社)地図調製技術協会 業務執行理事

岩田 邦雄 (公社)日本測量協会 総務部長

飯村 友三郎 (公社)日本測量協会 測量技術センター
管理部長・測地検査部長

斉藤 和也 (公財)日本測量調査技術協会 専務理事

田代 博 (一財)日本地図センター 常務理事

松本 治夫
〃 総務部長

鹿野 正人 国土交通省国土地理院 参事官

松村 正一
〃 基本図情報部基本図情報更新
技術分析官

アドバイザー
鹿田 正昭

金沢工業大学 副学長

オブザーバー
麓 博史

国土交通省 土地・建設産業局 建設市場整備課 専門
工事業・建設関連業振興室 企画専門官

※ 敬称略

	全国測量設計業協会連合会	測量専門教育センター	地図調製技術協会	日本測量協会	日本測量調査技術協会	日本地図センター	国土地理院
4月	未定	【学校説明会】			未定		【科学技術週間】科学館ガイドツアー H28. 4. 19～24
5月		【模擬試験】					
6月		【地図展】	【野外実習】 H28. 6. 23	【イベント】 測量の日、 イノベーション大会			【報告会】国土地理院報告会 H28. 6. 8
7月		【学校説明会】	【震ヶ関見学ツアー出前授業】 H28. 7. 27～28			【地図教室】 H28. 7. 23, 24, 26	【イベント】測量の日特別企画 H28. 7. 3
8月		【学校説明会】				【企業訪問】 H28. 8. 1～2 【展示会】 H28. 8. 10～12 【地図教室】 H28. 8. 18, 20, 21 【研修会】 H28. 8. 23	
9月		【学校説明会】					
10月		【学校説明会】	【企業訪問】 H28. 10. 20				
11月		【学校説明会】		【イベント】 G空間EXPO 地理空間情報フォーラム			【イベント】 G空間EXPO
12月		【学校説明会】					
1月							
2月		【学校説明会】					
3月							
通年		【体験入学】		【広報誌刊行】 【講習会】			【展示】地図と測量の科学館 ギャラリー展 H28. 3. 15～9. 14

測量専門養成施設（中央工学校）における広報活動への取り組み

1. 現在取り組んでいる広報活動

対 象	行 事 名 等 (会場)	概 要
高校生 社会人 (保護者)	学校説明会 (中央工学校)	入学希望者（保護者含む）を対象に、学校・学科・入試・資格取得・就職・学費等について説明。 (平成 27 年度実績) 参加人数 (実施回数) : 62 名 (10 回)
	体験入学 (中央工学校)	学校説明会と同じ説明と、90 分間の模擬授業（測量機器の体験）を実施。 (平成 27 年度実績) 参加人数 (実施回数) : 224 名 (27 回)
保護者	保護者対象 学校説明会 (中央工学校)	入学希望者の保護者を対象に学校・学科・入試・資格取得・就職・学費等について説明。 (平成 27 年度実績) 参加人数 (実施回数) : 16 名 (2 回)
高校生	高校ガイダンス (各高等学校) 会場ガイダンス (各地域の会場)	2・3 年生に対しては学校説明会と同じ内容、1 年生には、業界・業種の説明等を実施。(毎年、約 20 回程度実施)
	高校生対象 測量士補模擬試験 (中央工学校)	測量士補国家試験への対策として、毎年 4 月または 5 月の土曜日に実施。(毎年、約 10 校、約 100 名が参加)
	出前授業 (各高等学校)	高校からの依頼を受けて、本校の教員・器材を用いて出前授業を実施。
教員	高校訪問 (各高等学校)	卒業生の就学状況や卒業後の進路などを、旧クラス担任または進路指導担当者に報告。
一般	「くらしと測量・地図」 展 (新宿駅)	「測量の日」記念行事である「くらしと測量・地図」展に、東京地区実行委員会として参加。

2. 今後、取り組みを検討している広報活動

対 象	行 事 名 等 (会場)	概 要
高校生 教員	総合測量実習 への見学・参加 (軽井沢研修所)	土木科や農業科を有する高校を対象に、毎年 9 月に本校研修施設（軽井沢研修所）で実施している合宿形式の総合測量実習への見学と参加を呼び掛ける。
小学生 中学生	体験学習への参加 (中央工学校) (各小・中学校)	総合学習等の時間を利用して、地図や測量に関する学習を展開する。

以 上

(一社) 地図調製技術協会における 28 年度 広報活動報告

平成 28 年 6 月 29 日

(一社) 地図調製技術協会
業務執行理事 稲垣 秀夫

1. 平成 28 年 6 月 23 日 国土地図(株)及び地図調製技術協会の共同活動

群馬県教育委員会富岡市教育部・生涯学習課からの依頼により、富岡市立妙義中学校の三年生を対象に、学校周辺の地図と空中写真・野帳（ノート）・カメラなどを現地に携帯して実際の生活空間と対比しながら防災知識を学ぶ学習（座学・課外学習）を実施した。

座学では、プロジェクターで大きく投影した余色立体画像を自作の余色立体メガネで立体視しながら地形判読や植生判読の体験講座を行った。また、雨天時を想定して座学の補助材料として東日本大震災時の被災地調査に用いた装備・機材・保存食などを持参して床に並べて置いたら思いの外興味を持たれて会話が弾んだ。

科学館で 7/3～9/11 に開催される企画展示「地図を読む」の広報チラシを学校及び富岡市教育部に配布。

本件の現地調査活動が上毛新聞に地域記事として掲載された（記事の切り抜き参照）

2. 平成 28 年 7 月 27 日～28 日 国土地図(株)及び地図調製技術協会の共同活動

文科省生涯学習政策局が主催する「土曜学習応援団」の定期活動である霞ヶ関官庁施設の「こども見学デー」において東京タワーから北側を俯瞰するアナグリフ（都心の眺望）を展示し、空間情報を可視化する地図調製を広報する。

併せて、展示するアナグリフの縮小版（A4）と余色立体メガネの設計図を来場者に配布し、親子・児童・学生に自作メガネによる立体視を体感してもらい、3次元表現に対応する職業技術として興味を持つ事に期待。

3. 平成 28 年 10 月 20 日 会員会社として国土地図(株)による広報活動

金沢県立錦ヶ丘中学校の修学旅行生のうち地図・地理に興味を持つ生徒の会社見学を受入、地図製作現場における最新のデジタル技術体験。或いは空中写真デジタル画像と基盤地図情報（ベクタマップ）を用いてGISのモニターによる立体視（地理調査技術）と地形や植生の判読などを体験させて国土保全に無くてはならないインフラ技術として地図調製事業／測量技術に対する認識を深めて貰うことを継続活動の目的としている。

陸・海・空の地図（チャート）を並べて見せるだけで生徒の関心度は高い。また、大型のプロッターでA0サイズのハザードマップを出力して見せるデジタル印刷技術のデモなども好印象である。

同一活動として以下2校の企業訪問に対応済み

27年6月：愛知県安城市東山中学校

28年3月：宮城県仙台市立東仙台中学校

主な広報活動

種類	名称等	内容	会場等	主な対象	参加者等	備考
1	広報誌の刊行	月刊「測量」	技術情報誌(月刊・100p・約1.3j万部)	—	会員ほか 測量技術に関心のある者	
2	記者発表		主要建設専門紙への記者発表	会見又は資料配付	内容により会見あり	専門紙5社 年間10程度
3	測量の日	測量の日実行委員会活動	ポスター、パンフ等の配布	全国	公的機関、国民一般	
4	測量の日	地方での行事開催	講演会・体験イベント等	全国	国民一般	
5	イベント	測量・地理空間情報イノベーション大会	先端技術の紹介など	東京大学	企業、学生など	約1800名 資料参照
6	イベント	G空間EXPO・地理空間情報フォーラム	地理空間情報普及のためのイベント、関係団体共催	日本科学未来館	国民一般	約19000名 資料参照
7	講習会	公共測量講習会	公共測量の啓発	全国11ヶ所	行政機関	約700名
8	その他	パンフレット配布	広報推進協議会作成パンフの配布	—	本部、支部開催のイベント、総会、大学等へ配布	

広報関係の取組

(一財) 日本地図センター

① 地図ふえす

時期 8月10日(水)、11日(山の日)、12日(金)

会場 日本地図センター会議室

内容 新たに制定された国民の休日(山の日)に合わせて、目黒の本所周辺の一般市民を対象として、「地図と写真で見る関東の山々」のパネル等を展示するほか、国土地理院がかつて作成した「日本の山岳標高一覧-1003山」(技術資料)をベースとしたデータ集「日本の山岳標高1003山」(7月末、日本地図センター刊行)等を紹介する。

② 夏休み地図教室

時期 7月23日(土)、24日(日)、26日(火)

8月18日(木)、20日(土)、21日(日)

会場 日本地図センター会議室

内容 小学校中～高学年向けの内容で、近隣の教育委員会の後援を得て、講師の話のほか、保護者と一緒に地図と遊ぶ。今年のテーマは、「3D富士山を作ってみよう!」、「世界を食べる地図作り!」、「手作り地球儀に挑戦しよう!」。

③ マップリーダー研修会

時期 8月23日(火)

会場 日本地図センター会議室

内容 人々の地図に対する理解を深め、社会に地図の楽しさを広めるために活躍される人材を育成する。

④ マップリーダー・フォローアップ研修会

時期 8月23日(火)

会場 国立国会図書館、日本水準原点標庫

内容 マップリーダーに認定された方を対象として、スキルアップを目的として実施する。今回は、「永田町で地図と測量の歴史を学ぶ」と題して、国立国会図書館に収蔵されている各時代に各国が作成した地図の閲覧、日本水準原点の説明を受け、100年以上利用されている基準点の歴史を学ぶ。

⑤ 児童生徒の職場訪問学習

時期 8月1日(月)、2日(火)

会場 日本地図センター

内容 千代田区立九段中等教育学校の生徒を受け入れ、地図づくりの現場での体験学習を行う。

第2回「測量・地理空間情報イノベーション大会」

■主催：公益社団法人 日本測量協会
(日本学会会議協力学術研究団体)

■共催：スペシャリストの会
(空間情報総括監理技術者の会：SPの会)
ジオメトリストの会
(地理空間情報専門技術者の会：GMの会)

■後援：国土交通省 国土地理院

■日時：平成28年6月14日(火)～15日(水)

■会場：東京大学伊藤国際学術研究センター
(東京都文京区本郷7-3-1)

- ・ホール(B2F)：伊藤謝恩ホール(定員500名)
多目的スペース(定員100名)
- ・ギャラリー(B1F)：ギャラリー1(定員80名)
ギャラリー2(定員50名)

■当協会支部への同時中継：

伊藤謝恩ホールでの講演は当協会各支部(関東を除く9支部)に同時中継します。

東京大学伊藤国際学術研究センター



会場案内図

- アクセス：東京メトロ丸ノ内線
「本郷三丁目」駅下車 徒歩 8分
都営地下鉄大江戸線
「本郷三丁目」駅下車 徒歩 6分

第2回イノベーション大会Web参加会場詳細

支部名	開催都市	定員	会場名	郵便番号	住所
北海道	札幌市	50名	北海道測量会館	062-0921	札幌市豊平区中の島1条4-9-2
東北	仙台市	40名	仙萩ビル6F会議室	983-0852	仙台市宮城野区榴岡5-1-12
北陸	富山市	20名	測量会館	939-8094	富山市大泉本町1-12-14
中部	名古屋市	36名	丸の内駅アレックスビル1階会議室	460-0002	名古屋市中区丸の内1-4-12
関西	大阪市	50名	イトウビル4F	541-0054	大阪市中央区南本町3丁目6-14
中国	広島市	30名	エソール広島	730-0043	広島市中区富士見町11-6
四国	高松市	50名	サン・イレブン高松 2F研修室	760-0067	高松市松福町2-15-24
九州	福岡市	48名	リファレンス駅東ビル 2階 T会議室	812-0013	福岡市博多区博多駅東1-16-14
沖縄	那覇市	20名	沖縄産業支援センター	901-0152	那覇市字小禄1831番地1

第2回「測量・地理空間情報イノベーション大会」プログラム

平成28年6月14日(火)

時間	伊藤謝恩ホール(500人)	多目的スペース(100人)	ギャラリー1 (80人)	ギャラリー2 (50人)
10:00-10:15	開会の挨拶(ホール)			
	これからの測量・地理空間情報のビジネス動向を知る	今の測量・地理空間情報の技術を知る	CPDの現状とこれからの戦略を考える	総合評価時代を生き抜く術を知る(スペシャリストの会シンポジウム)
10:15-10:50	Yahoo!カーナビの方向性と利活用について 廣瀬典和(ヤフー(株))	ポスターセッション会場	10:15-10:40 発注機関における測量CPDの活用状況 桐内 勉(CPD協議会)	10:15-10:40 講習会アンケートから見た現状を知ろう 林 義政(横バスコ)
10:50-11:25	Googleマップを活用した位置情報アプリケーションの最前線 丸山智康(Google(株))		10:40-11:10 入札・契約における関東地方整備局の取り組み 鳥澤秀夫(国土交通省関東地方整備局)	10:40-11:10 総合評価方式に求められるスキルを磨こう 岡本芳樹(横バスコ)
11:25-12:00	マルチGNSS時代のネットワークRTK配信とQZSS補正情報 細谷素之(横ジェノバ)		11:10-11:35 入札・契約における国土地理院の取り組み 齋藤秀勝(国土交通省国土地理院)	11:10-11:35 提案書作成前の準備を理解しよう 瀬戸島政博((公社)日本測量協会)
12:00-13:00	昼 休 み			
13:00-14:00	休 室	展示説明	休 室	
14:00-15:00	基調講演 レジリエンスの向上をめざした新しい防災の推進 林 春男 (国立研究開発法人防災科学技術研究所)	ポスターセッション会場	外部から見た測量技術者の“あるべき姿”を聞く 測量・地理空間情報の最新情報を知る (ベンダーフォーラム)	
15:00-15:15	休 憩		GIS専門誌の編集者から見た測量技術者への期待 遠藤宏之(横ネクストパブリッシング)	GNSS衛星と高精度受信機の動向 (株)トプコン
15:15-15:45	スマートコンストラクションについて 四家千佳史(コマツ)		業界紙の女性記者から見た測量業界の役割—産学官の枠を越えた横断的な技術(向上)の必要性— 田嶋千文(横日刊建設通信社)	3Dレーザーキャナーの高度利用 TIAサヒ(株)
15:45-16:15	海中プラットフォームシステムとレーザ計測 巻 俊宏(東京大学)		The Positioning Innovation by RTX Technology (株)ニコン・トリニプル	Pegasus: Backpack ウエアラブルデバイスによる屋内外計測ライカジオシステムズ(株)
16:15-16:30	休 憩		休 憩	
16:30-17:00	測量業界と著作権 甲斐哲平(ノースルー国際特許事務所)		測量技術者が果たすべき役割と使命—取材の第一線から見た課題と可能性— 脇坂章博(横建通新聞社)	小型固定翼UAV製品seseFly eBeeシリーズ紹介 ジオサーフ(株)
17:00-17:30	ソクジョの会今後の活動方針 杉森純子(測量・地理空間情報女性の技術力向上委員会)		技術者のあるべき姿に向けて 那須 充(アジア航測(株))	RIEGL TLS・ULS・MMS カテゴリ別最新動向 リーグルジャパン(株)
17:45-	懇 親 会			



ホール室内



ギャラリー室内

第2回「測量・地理空間情報イノベーション大会」プログラム

平成28年6月15日(水)

時間	伊藤謝恩ホール(500人)	多目的スペース(100人)	ギャラリー1(80人)	ギャラリー2(50人)
	今、話題の注目技術を知る(その1)	3次元地理空間情報の最前線を知る	高分解能衛星の最前線を知る	測量・地理空間情報におけるプロの世界を知る(ジオメトリストの会シンポジウム)
10:00-10:30	三次元計測技術と市場動向 河村幸二(倫スパボイントリサーチ)	測量が変わる・測量が変わるI-ConstructionとCIMとGIS 井上 修(オートデスク(株))	国産衛星の活用事例と市場動向 渡川真規(株)バスコ)	本セッションの狙い 住田英二((公社)日本測量協会)
10:30-11:00	プラットフォーム化する地理空間情報と国内外の動向 瀬戸寿一(東京大学)	インフラ点検に活用できる調査車両の紹介 那珂通大(ニチレキ(株))	高分解能衛星画像の活用事例と展望 若松健司(株)NTTデータ)	UAV取組事例と討議 1. UAVによる空撮および三次元モデルを用いた河道内樹木群の現況把握と管理手法の検討 丹野幸太(アジア航測(株)) 2. 多様な計測機器を用いた河川管理手法の検討 小田三千夫(国際航業(株)) 3. 記念艦三笠の甲板部分の3次元形状データ作成 林 大貴(株)バスコ) 4. UAVを用いた計測業務に関する検討 阿部美沙(朝日航洋(株))
11:00-11:30	屋内位置情報サービスへのビジネス動向 南 幸弘(アジア航測(株))	GNSS不要、簡便なモバイルレーザ計測について 星野慎司(中日本航空(株))	高分解能衛星による地図作成の検討状況について 南 秀和(国土交通省国土地理院)	MMS取組事例と討議 1. MMSを用いた土工出来形管理 白石宗一郎(朝日航洋(株)) 2. 鉄道MMSに向けた開発 本間亮平(アジア航測(株)) 3. 移動計測車両(MMS)を用いた道沿道調査の課題と解決方法 阿部亮吾(国際航業(株)) 4. MMSによる道路ストック総点検(路面性状調査への展開) 山本耕平(株)バスコ)
11:30-12:00	超小型衛星コンステレーションによる毎日全球観測プラットフォームの構築 中村友哉(アクセル・スペース(株))	3次元都市モデルの構築と活用事例 山崎廣二(アジア航測(株))	JSIが取り扱う最新地理空間情報のご紹介 小関由和(日本スペースイメーシング(株))	
12:00-13:00	昼 休 み			
	今、話題の注目技術を知る(その2)	UAVによる3次元計測の最前線を知る	GNSSの最前線を知る	明日の担い手を育む
13:00-13:30	UAVを用いた公共測量マニュアル(案)及び安全基準 倉田一郎(国土交通省国土地理院)	UAVを活用した土木イノベーション 杉浦伸哉(株)大林組)	アジア地域における電子基準点の展開 今給黎哲郎(国土交通省国土地理院)	測量に関する実践的な技術と幅広い知識の習得をめざして 尾崎嘉彦(京都市立伏見工業高等学校)
13:30-14:00	ICTとG空間情報で新しい森林ビジネスを作る 寺岡行雄(鹿児島大学)	本格的なUAV活用における運用の現状と課題 鶴飼尚弘(MORALS)	GNSSとICT(情報化施工)―国内及び海外での事例紹介― 北山 孝(西尾レントオール(株))	測量専門学校の現状と教育への取組 土田俊行(中央工学校)
14:00-14:30	地理空間情報を活用したリアルタイム津波浸水被害推定 村嶋陽一(国際航業(株))	UAVの公共測量への活用事例 川村義和(株)アスコ大東)	アジア地域におけるGNSS測量と最新受信機 加藤文典(株)トプコン)	知育と徳育 小泉俊雄(千葉工業大学)
14:30-14:45	休 憩			
14:45-15:15	道路・構造物維持管理におけるポイントクラウドの活用 大伴真吾(朝日航洋(株))	パネルディスカッション(拡がる利活用と技術的、制度的課題) SfMを用いた3次元計測精度検証と問題点 村木広和(国際航業(株))	オープンソースRTKLIBによる1周波RTK測位性能の実力 岡本 修 (茨城工業高等専門学校)	企業内大学の事例について 松谷泰生(国際航業(株))
15:15-15:45	ALB(航空レーザ測深)による計測事例のご紹介 川村 裕(株)バスコ)		衛星測位(高精度測位)の新たな利活用に向けた技術革新 石井 真(測位衛星技術(株))	中小企業における人材育成と事業承継 北原良彦(株)地域みらい)
15:45-16:00	まとめ、閉会の挨拶(ホール)			

第2回 測量・地理空間情報イノベーション大会ポスターセッション参加者一覧とタイトル

番号	部門	社名	タイトル
	UAV部門 21		
1		リーガルジャパン(株)	RIEGL UAVレーザースキャニングシステム最前線
2		テラドローン(株)	UAVによる高精度測量事業のご紹介
3		日本気象(株)	上空の風予報でドローン飛行判断を支援する「お天気クラウド」
4		日本インターグラフ(株)	IMAGINE UAVのご紹介
5		(株)計測リサーチコンサルタント	軍艦島デジタルミュージアムへのUAVの応用
6		(株)アスコ大東	UAVレーザーと図化ソフト
7		金井度量衡(株)	最低価格を目指したLiDAR搭載試作実験
8		(株)イメージワン	自動オルソモザイク&3D処理ソフトウェア Pix4Dmapperのご紹介
9		(株)フォーラムエイト	バーチャルリアリティの時代。 UC-win/Road(TM)
10		ルーチェサーチ(株)	日本初UAV「SPIDER-eX」を用いた航空レーザー計測
11		(株)ハヤテ・コンサルタント/疾測量(株)	UAVによるダム湖および原石山の多視点画像計測と3Dモデルの作成
12		(株)荒谷建設コンサルタント	UAVによる空撮からの3D点群データの作成・活用技術と運用事例及び今後の展開
13		(株)かんこう	UAVを用いた空中三角測量による地図データ修正
14		(株)タックエンジニアリング/ジオサーフ(株)	UAV(回転翼・固定翼)による高精度3D計測
15		(株)ナカノアイシステム	UAVを活用した数値地形図データ整備
16		(株)エンルート	i-Constructionにおけるドローンの役割と可能性
17		(一社)NABUC	UAVの操縦技術について
18		(株)構造計画研究所	ドローン間通信技術:ドローンdeリレー
19		晃洋設計測量(株)	無人航空機専用飛行場とちぎUAVフィールド
20		(株)中庭測量コンサルタント	UAVの自立飛行の開発
21		(株)エアロ・フォト・サービス	UAVと有人機撮影の比較
	MMS部門 5		
22		(株)ウエスコ	3D点群処理ソフトウェア MOMOS
23		第一航業(株)	精度向上の探究
24		(株)テイコク	全周囲カメラによる高精度移動体計測システム
25		アイサンテクノロジー(株)	三菱MMS(モービルマッピングシステム)の進化
26		(株)フジヤマ	MMSの活用
	地上レーザー部門 5		
27		(株)テクノス	TLSを用いた測量業務の実例～砂防河川における地形測量への利活用～
28		扇精光コンサルタンツ(株)	文化財における3次元計測の活用
29		(株)みずす総合コンサルタント	3Dレーザースキャナーシステム
30		東日本総合計画(株)	地上型3Dスキャナーによる地形計測
31		IIアサヒ(株)	見えない箇所の見える化の進展 TOF&CWレーザーのシンクロ・UASによる活用
	航空レーザー部門 5		
32		(株)オーピーティー	写真計測用ソフトウェア Agisoft
33		(株)シン技術コンサル	地貌図～微地形を捉えた航空レーザー計測データの表現～
34		(株)タナカコンサルタント	航空レーザー計測のご紹介
35		(株)エイテック	地籍筆界案活用法における航空レーザー3D地形図の活用について
36		昭和測量(株)	UAV搭載型レーザースキャナーを用いた地形計測技術
	高分解能衛星部門 4		
37		日本スペースイメージング(株)	衛星画像を活用した高精度三次元データ:VRIGON社
38		(株)NTTデータ	AW3D@全世界デジタル3D地形データ
39		(株)サテライトイメージマーケティング	Airbus衛星(Pleiades, SPOT6&7)のご紹介
40		(一財)リモート・センシング技術センター	高空間分解能衛星による浅海域の海底地形の把握
	GNSS部門 10		
41		(公社)日本測量協会	GPS精密解析情報提供サービス
42		(公社)日本測量協会	電子基準点リアルタイムデータ提供サービス
43		電子基準点を利用したリアルタイム測位推進協議会	電子基準点を利用したリアルタイム測位推進協議会
44		(株)ジェノバ	マルチGNSS時代のネットワークRTK配信とQZSS補正情報
45		国土交通省国土地理院	GEONETのマルチGNSS対応～電子基準点が切り開く新たな世界～
46		国土交通省国土地理院	石岡測地観測局が運用開始
47		ライカジオシステムズ(株)	マルチGNSSへ最適化: RTKplus, 555チャンネル, SmartLinkサービス
48		日立造船(株)	NetSurvRE
49		(株)コア	準天頂衛星の補強信号を用いたcm級測位
50		(株)ニコン・トリンプル	Trimble GNSS Solutions
	その他部門 10		
51		(株)岩根研究所	映像がそのまま3D地図になる
52		計測ネットサービス(株)	3次元変位計測システム【モバイルダムシス】
53		ビジオテックス(株)	米国製Sonar Wiz ソナーデータマッピングソフトウェアとベルギー製Pythagoras CAD+GISソフトウェア
54		福井コンピュータ(株)	i-Constructionを強力に支援
55		(株)カクマル	UAV用対空標識「フォトクラ50」
56		(有)牛方商会	高精度・長距離測定用距離計
57		タマヤ計測システム(株)	タマヤ測量機器
58		(株)千葉測器	一番身近なITパートナー千葉測器グループ
59		あっとクリエーション(株)	iPadで現地調査で再入力や写真整理がなくなる!?
60		(株)リプロ	ICタグを活用した杭管理システム

Geo spatial 空間EXPO 2015

地理空間情報科学で未来をつくる



テープカット

◀左から
 (一社)地理情報システム学会 矢野会長
 (一財)衛星測位利用推進センター 岡部理事長
 (公社)日本測量協会 矢口会長
 国土交通省 土井副大臣
 日本科学未来館 毛利館長
 国土交通省 北本大臣官房審議官
 国土地理院 越智院長



土井亨国土交通副大臣(左)と瀬戸島専務理事(右)



ブース全景



メインステージ



会場風景



Geoアクティビティフェスタ



親子で体験



Geoエデュケーションプログラム



地理空間情報フォーラム2015開催

1. はじめに

第5回となるG空間EXPOが昨年11月26～28日、日本科学未来館で開催されました。このイベントは地理空間情報活用推進基本計画（平成24年3月閣議決定）に基づいて実施されるものです。イベント全体は関係機関による展示、教育プログラム、講演・シンポジウム等により構成され例年と同様でしたが、昨年まで1Fシンボルゾーン（入り口付近の地球儀（ジオ・コスモス）の下）に設置されていたメインステージが、1F展示場奥に移動しました。また、今回からG空間EXPOのロゴの“G”の部分に“Geo spatial”が追記されました。これまで“G”がどのような意味なのか、よくわからなかったのですがこれでスッキリしました。

2. 全体的な傾向

準天頂衛星を含めたGNSSによる高精度測位、高品質な3次元地理空間情報の整備や利活用、などの従来路線に加え、今回は流行語大賞の候補にもなった“ドローン”関連の展示やシンポジウムが目につきました。また、海中センシング技術の紹介、IoT（Internet of Things、様々な物体にセンサーなどを取り付け、通信機能を介して状況把握、自動制御、遠隔操作など行うこと）に関する取り組みなど、地理空間情報をより能動的に構築し利活用する取り組みが目新しさを感じさせました。

また、昨今の少子高齢化問題に端を発する若手技術者（担い手）不足をテーマとするシンポジウムも開催され、業界全体に内在する構造的な課題解決に向けた取り組みもあり、技術論のみならず、社会的課題の解決に向けた取り組みも目新しいところです。

3. 地理空間情報フォーラム2015

本フォーラムは測量系4団体がG空間EXPOの中で主催するもので、1F展示場と多目的ルームの運営、測量コンテンツなど、測量・地理空間情報に関する様々なイベントを運営しています。

1Fの展示場での恒例の展示(36団体)は、ドローン関連の機体、センサー、利用アプリケーションの紹介、屋内測位関係の機器やツールの展示が増えた印象です。次年

度以降、これら機器やアプリなどを組み合わせたシステムが出現していくことでしょう。また、政府が主導するG空間プロジェクト（G空間プラットフォームの構築、G空間社会実証プロジェクトなど）の展示などもあり、改めて取り組みが進捗していることが窺えました。

1F多目的ルームでは26日にシンポジウム「G空間社会に測量・地理空間情報が果たす役割」が開催されました。今、注目を浴びている衛星測位や自動走行、ドローンといった技術の根底に測量・地理空間情報技術が重要な役割を果たしている、という基調テーマでシンポジウムが行われ、27日はベンダーフォーラムが開催され、参加各社の最新の取り組みの紹介があり、28日は学生フォーラムの開催となりました。

7Fの講演・シンポジウム関係では「輝け！女性技術者」と題し、呉文繡国際航業株式会社代表取締役会長の基調講演に続き、関係各機関の女性によるパネルディスカッションが行われました。男性にとっても非常に意義のあるシンポジウムとなりました。

4. 今後に向けて

言うまでもなく、G空間EXPOは衛星測位と地理空間情報の2分野を柱として開催されますが、年々より手軽な測位や地理空間情報処理技術が目立つようになってきたと感じています。誰でもがUAVに様々なセンサーを取り付けて、手軽に3次元地理空間情報を得ることができるようになりました。今後はこのような手軽な地理空間情報の利活用が一層加速することが考えられます。一方、地理空間情報を利用してロボット機器等の制御や自動車の自動走行支援といった技術開発も着実に進歩しています。こうした分野では極めて品質（位置と時間の精度）の高いデータが不可欠です。

従前から「利用目的に応じた地理空間情報」といった議論を長年重ねてきた経緯がありますが、今後は誰でもが地理空間情報を手軽に扱える分野と、専門的知識や経験を生かして初めて利用目的が達成される分野の二極化が進むのではないかと感じています。今後、それぞれに対して我々はどうのような貢献ができるのか考える必要があると思います。

(公社)日本測量協会理事 住田 英二

地理空間情報 フォーラム2015

展示場



(株)日立製作所/(株)日立ソリューションズ/
(株)日立産機システム



(株)GISupply



(株)インフォーマティクス



三菱電機(株)/アイサンテクノロジー(株)



総務省統計局/(独)統計センター



総務省/国立研究開発法人情報通信研究機構/
東京大学/(株)日立製作所



(株)岩根研究所



(一財)日本建設情報総合センター



内閣府宇宙戦略室/準天頂衛星システムサービス(株)/経済産業省/
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構/(一財)衛星測位利用推進機構



サイトセンシング(株)



(株)バスコ



(株)イメージワン



バックインターナショナル



リーグルジャパン(株)



アジア航測(株)



(株)アスコ



(一社)日本測量機器工業会



朝日航洋(株)



三菱電機(株)



(株)ゼンリン



esriジャパン(株)



国土交通省国土政策局



国立研究開発法人 産業技術総合研究所



(株)快適空間FC



(株)コア



国土交通省・高精度測位社会プロジェクト



国立研究開発法人 防災科学技術研究所



経済産業省
 (一財)日本情報経済社会推進協会



国土地理院



国立研究開発法人 国立環境研究所



(公社)日本測量協会



国際航業(株)



日本スペースイメージング(株)



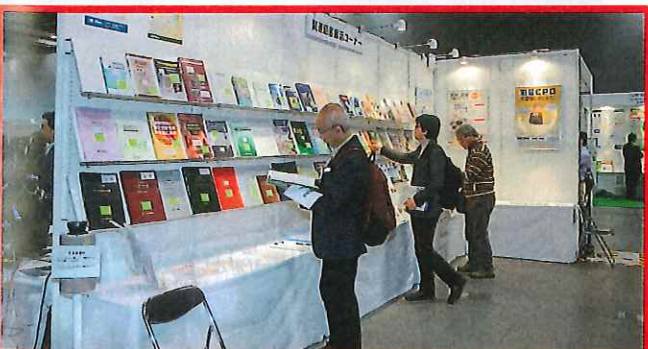
(公財)日本測量調査技術協会



(株)エムティーアイ



測位衛星技術(株)



図書コーナー



G空間社会に測量・地理空間情報がはたす役割



バンダーフォーラム



測量の日

体験・体感イベント



人工衛星クイズ



高解像度でVR環境を体験



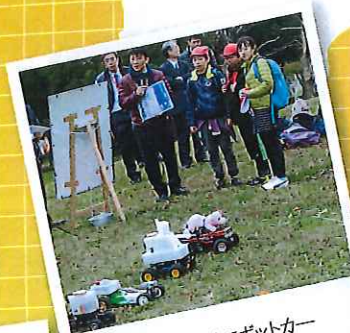
3DレーザースキャナーデータでAR体験



端末やタブレットによる操作体験



ヘッドマウントディスプレイ



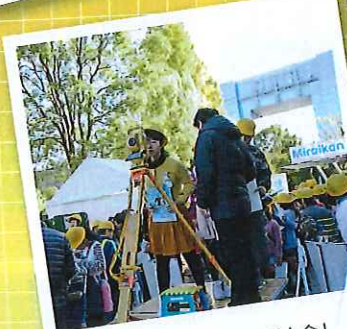
GPS-QZSSロボットカー



超簡単Photos-CADモデリング体験



UAVに触れて体験



距離を測る体験「歩測大会」



災害情報活用システム



歩測の達人



「測量船」一般公開



測量コンテスト

西北毛

情報は支局へ

沼田 ☎ 0278・24・4341 Fax 0278・24・3247 ✉ numata@raijin.com
沼田 ☎ 0279・22・4341 Fax 0279・24・6444 ✉ j-shibukawa@raijin.com
沼田 ☎ 0274・22・1115 Fax 0274・24・0056 ✉ fujioka@raijin.com

富岡 ☎ 0274・62・4341 Fax 0274・
安中 ☎ 027・381・4341 Fax 027・3
中之条 ☎ 0279・75・3031 Fax 0279・

俳優・渋川さん、



ばらしい作品にしてほしいと期待した。同市は渋川伊香保温泉フィルムコミッションを通じてロケ地の情報提供などで支援していくという。映画の仮題は「櫻

渋川 渋川市を舞台にした映画を今年夏に撮影するとともに同市出身の俳優、渋川清彦さん(41)と映画監督、飯塚健さん(37)が23日、同市役所に阿久津貞司市長を敬訪問し、記者会見を開いた。同郷の2人が主演と監督という形でタッグを組むのは初めて。渋川さんは「故郷で主演映画を撮る夢が実現した」と話し、飯塚さんは「渋川の良さを全国や海外にも発信したい」と意気込んだ。

飯塚さんは、映画「荒川アンダーザ・ザ・ブリッジ THE MOVIE」を監督したほか、舞台や小説、アニメなどの分野でも活躍している。8月に同市でクラン

校区の地形調べたよ

妙義中 生徒 地図片手に測量体験

富岡 校区の地形について専門家から学ぶ特別授業が23日、富岡妙義中(土屋勇校長)で開かれ、国土地図(東京都、稲垣秀夫社長)社員ら4人が3年生20人に講義した。生徒は市のハ

ザードマップで浸水想定区域に指定されている学校周辺を、地図を片手に測量体験をしながら巡った。生徒は周辺図を持って広葉樹やフェンスなど、記載された記号の意味を学んだ。標高が記された箇所では、ホワイ



実際の場所と地図を見比べる生徒

トボードに標高を書いて写真を撮り、測量作業の一端を体験した。周辺の地形である河岸段丘についても説明を受けた。稲垣社長は「なぜこの場所にこの記号があるのか、見るだけでなく、地図から読み取ってほしい」と呼び掛けた。白倉奨久君(14)は「普段通る道だったが、60秒の高低差には初めて気付いた」と驚いていた。

・志賀さわやか街道」の景観向上に向けて、街道沿いの住民約200人が23日、草津町や長野原町、嬭恋村で、中之条高校の生徒が育てたサルビア8000本の合同植栽活動を行った。

街道にサルビア8000

住民が合同植栽

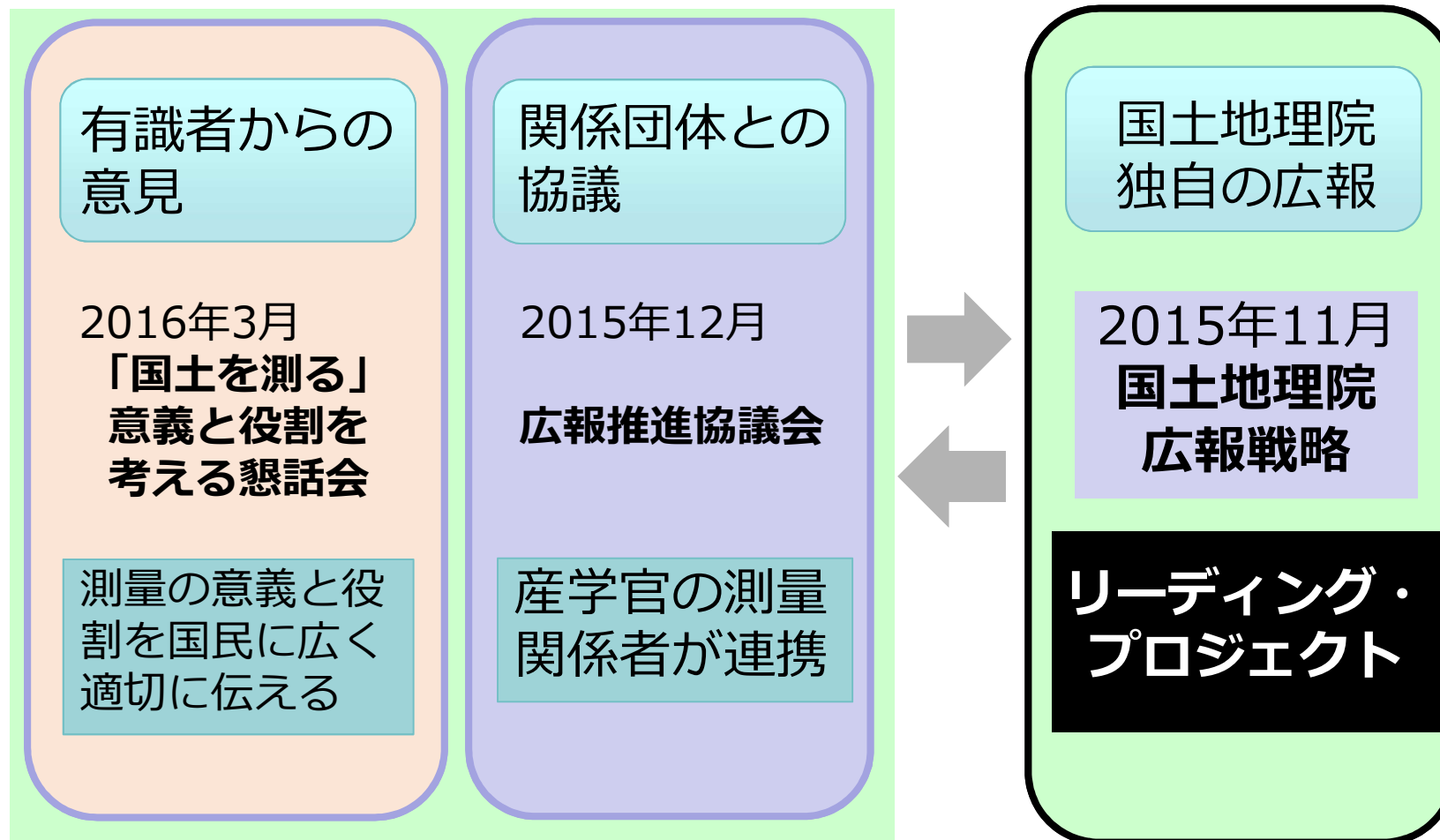


10分団が消火柱



か 町 東 だ。 競 員 開 成 敬 4 分 棟 東

国土地理院の広報の取組



「国土を測る」意義と役割を考える懇話会について

目的	「国土を測る」測量について、その意義や役割を明確にし、これを広く国民に伝える上で、何をどのように伝えることが適切であるか、有識者からの意見を聴取し、今後の取組に反映させる。
構成員	<ul style="list-style-type: none">マスコミ関係者、地図・測量成果等のユーザ、学識経験者（測量、土木、地理教育等）、測量に関連のある各分野の専門家（建設、宇宙、防災等）合計10名程度を想定測量関係者（測量団体等）については、オブザーバとして参加を予定
開催予定	第1回を平成28年3月に、第2回を平成28年5月に開催 全4回程度開催し、平成28年中に報告書等に取りまとめる予定
その他	<ul style="list-style-type: none">会議は原則として全てオープンなものとし、記者等が会議全体に参加し記録等を行うことを認める（会議資料や議事録等についても、原則公開予定）懇話会で出された意見については、国土地理院において取りまとめ、広報推進協議会等における検討に反映
主催者	国土地理院

「国土を測る」意義と役割を伝える懇話会の開催実績

第1回懇話会(平成28年3月25日)

- 社会経済活動と「国土を測る」という活動との関係等について議論。
(主な意見)
 - ・「広報」ということを考えるのであれば、ストーリーで語る、文脈で語っていったらどうか。
 - ・「広報」という観点では、下流からの発想が結構重要だと思う。



第1回懇話会

第2回懇話会(平成28年5月22日)

- 国土地理院の取組や役割について広く国民に紹介するための方策を議論。
- 会合に先立ち、懇話会委員が国土地理院の観測施設や「地図と測量の科学館」をご視察。



VLBIアンテナ
(地球上でのわが国の位置を正確に測る。直径32m)



絶対重力計
(わが国の重力の値のおおもとを作る機械)



日本列島空中散歩
(測量と地図の科学館。3Dメガネで熊本周辺の地形を体感)



第2回懇話会
(国土地理院の取組や役割を広く国民に紹介するための方策を議論)

(主な意見)

- ・「まもる」という役割について、国民の日常生活を支える役割がまずあり、その延長線上に災害対応がある。
- ・「伝えたいこと」ではなく「世の中の人を知りたいこと」を伝える観点で広報しないと関心をもたれない。

今後の予定

今後関係団体へのヒアリング、第3回・第4回懇話会を経て本年末を目処に報告書を取りまとめる予定。3

国土地理院は、**広報戦略**に基づき**リーディング・プロジェクト**を進めています

時間

「G(技術)・K(広報)・K(教育)」プロジェクト
: 広報・教育両面から将来の技術者づくり

大学 インターンシップの開催

- ① ・学(測量・地図関連分野の学会)・産(測量関係団体)・官の連携
・地図と測量の科学館(つくば)で学生を対象としたサマースクール

小中高 基準点

電子基準点を設置している学校への出前授業

- ② ・全国1,300の電子基準点のうち600が学校内 ⇒ “学校へ行こう”
・児童生徒・教師に、電子基準点の役割や測量の大切さ等を伝える

施設 地図と測量の科学館(つくば)の積極活用

- ③ ・地図・測量の役割を楽しみながら体験できる場としての充実
・地理・防災教育の場として利活用

組織 地元と連携した広報プロジェクト

- ④ ・地方測量部等(全国10組織): 地元自治体、教育機関等との連携
・つくば: 石岡測地観測局(VLBIアンテナ)を教育の場として活用

空間

ストック有効活用プロジェクト

: 国土地理院の組織、施設等を積極活用

人間

基盤プロジェクト

: 職員の能力を高め共通認識のもとで広報

意識 アピールポイントをまとめた資料を活用

- ⑤ ・国土地理院の仕事のアピールポイントを5分で説明する工夫
・幹部等職員全員が同一資料で積極的に対外説明

能力 広報パーソンの育成

- ⑥ ・職員のプレゼン能力の向上
・中級レベル以上のプレゼンターの育成

経緯

国土地理院 【役割】はかる、えがく、まもる

【沿革】1869(明治2)年: 民部官(省)→内務省→参謀本部→内務省→建設省→国土交通省
⇒ 147年の伝統を将来へつなげる (時間)

【体制】つくば + 10組織(北海道・東北・関東・北陸・中部・近畿・中国・四国・九州・沖縄)
⇒ 成果と技術を全国に波及 (空間)

広報戦略

- ・国土地理院の役割に理解を得る広報を目指し、平成27年11月24日に取りまとめ
⇒ 職員一人ひとりが広報パーソン (人間)

リーディング・プロジェクト

- ・広報のシンボルとして広報戦略に定めたプロジェクト: 時間 空間 人間 ①~⑥